

# 都市とITとが出合うところ

福田知弘 大阪大学 大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 准教授

建築・都市とIT（情報技術）とは一見遠く離れた別々の分野のように思えなくもない。しかし、情報社会の時代となり、建築・都市とITとは、計画、設計、施工、運用の各フェーズにおいて、互いの存在をますます無視できなくなっている。本連載では、都市とITとの両者が出合うところや課題について、魅力的な国内外の各地をぶらりと街歩きしながら考えてみよう。

## 第62回

### メディアファサード

#### メディアファサード

デジタルサイネージに続いて、メディアファサードについて考えてみよう。メディアは情報を伝達する媒体を、ファサードは建築物の正面（立面）部分を、それぞれ意味する。すなわちメディアファサードは、建物の立面（壁やガラス）にLEDなどの光源を設置して、デジタル技術により映像を動的に表示する照明演出といえる。

#### ビル単体のメディアファサード

建物の照明演出は、直接投光照明方式（対象となるファサードの外側から投光。ライトアップなど）、自発光照明方式（建物自身に点状・線状の発光体を設置。イルミネーションなど）、透過光照明方式（屋内照明を外観上も美しく見せる）などの方式により取り組まれてきたが<sup>1)</sup>、光源（照明器具）は長らく単色であり、さらに、光源同士がネットワーク化された事例は少なかった。

LEDはフルカラーの表示が可能であり、光の強さや色を変化させることで動きを表現することができる。各LED光源はネットワーク化もできる。4月に香港を訪問した時のこと、香港で最も高い環球貿易廣場（484m）はファサード全体を使って、デジタル時計、月の満ち欠け、鳥の飛ぶ様子、雲の動きを白色の落ち着いた色合いで大らかに表現されていた。夜7時を迎えると、アナログ時計やハートの表示となり、時報を意識させた（図1上）。余談であるが、ビル足元の香港西九龍駅からは、北京までの直通列車が昨年開通、2000kmを9時間で結ぶ。

香港島のビクトリアハーバー側はもう少し派手な演

出。中国銀行タワー（367m）は象徴的な三角形を構成する各辺が白色でテンポよく移動する。また、香港上海銀行・香港本店ビルはファサード中央部のまとまったエリアがデジタルサイネージなどで表示されていた（図1下）。

#### 都市スケールのメディアファサード

ビル単体だけでなく、都市スケールでのメディアファサードも出現している。筆者が最近驚いたのは、中国・深センの取り組みである。中心部に位置する公共施設地区広場とそれを囲むビル群が、一体的にメディアファサード化されている。規模を地図で測ってみると、およそ1km×2kmという巨大さ。季節ごとにコンテンツを変えながら、毎日実施されているそうである。是非、Youtubeで実写映像をご覧頂きたい<sup>2)</sup>。これは、メディアアーキテクチャ学会（Media Architecture Institute）で活動する知人に教えていただいた。

#### メディアアーキテクチャ学会

メディアアーキテクチャ学会（Media Architecture Institute）は、メディアファサードを研究対象のひとつとしている。2009年にヨーロッパで設立され、全世界に広がっている。当学会ではメディアファサードのほか、モバイルアプリ、ソーシャルメディア、位置情報サービス（Location based services）、都市のスクリーン（Urban Screens）、応答環境（Responsive Environments）など、建築・都市の空間や活動に関するデジタル技術を扱っており、研究発表会のみならず、ビエンナーレが2年に一度開催されている。また、メディアアーキテクチャビエンナーレの賞に応募された作品を集めた書籍も出版されている<sup>3)</sup>。

メディアファサードがまちなみの景観に与える影響



**福田 知弘 (ふくだ ともひろ)**

1971年兵庫県加古川市生まれ。環境設計情報学が専門。大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士後期課程修了、博士(工学)。大阪市都市景観委員会専門委員、神戸市都市景観審議会委員、吹田市教育委員会委員、CAADRIA (Computer Aided Architectural Design Research In Asia) フェローほか。NPO法人もうひとつの旅クラブ理事。「光都・こうべ」照明デザイン設計競技最優秀賞受賞。主な著書に「はじめての環境デザイン学」など。ふくだぶろーぐは、<http://fukudablog.hatenablog.com/>



図1. メディアファサード (香港)

は小さくない。広告物は情報伝達媒体のひとつであり、立面全体に広告物がLED表示されたものは、メディアファサードともデジタルサイネージともいえそうである。これらをどう考えていくのか、質の高いメディアファサードを如何に作っていくか、隣接するメディアファサード同士は折り合えるのか、気になるところである。

**参考文献**

- 1) 景観材料推進協議会: 景観照明 ―景観に配慮した照明の使い方―, 1997.
- 2) Media Façade Limited: Shenzhen media facade project <https://youtu.be/b1n-aFwkGqc> (2019年5月8日参照)
- 3) Luke Hespanhol et al., Media Architecture Compendium: Digital Placemaking, Av Edition GmbH, 2017.